

大豆由来のPS データを最も豊富に有する



リパミン™ PS

リパミン™ PS ラインナップ

- LIPAMINE PS 90PN PS含量 88%以上
- LIPAMINE PS 70PN PS含量 70%以上
- LIPAMINE PS 50PN PS含量 50-60%
- BHN PS-20P PS含量 18-22%

推奨量 100 - 300mg/日

リパミン™ PSとは

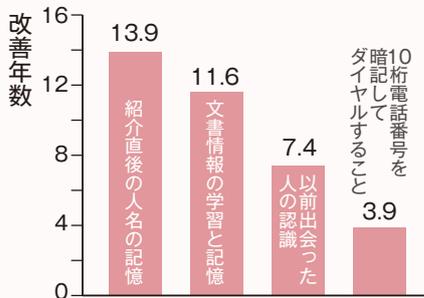
リパミン™ PSは、大豆レシチン (リン脂質) からつくられたホスファチジルセリン (PS) です。PSは、脳内の集中力や学習能力に関与する神経伝達物質“ドーパミン”と“アセチルコリン”の分泌を促進したり、ストレスホルモン“コルチゾール”を低下させることが知られています。

リパミン™ PSで行った試験では、高齢者の認識力改善をはじめ、抗ストレス、集中力、AD/HD (注意欠損多動性障害)、スポーツニュートリションに関して数々の有効性が証明されています。

記憶力の改善効果

脳年齢を若返らせるリパミン™ PSの効果

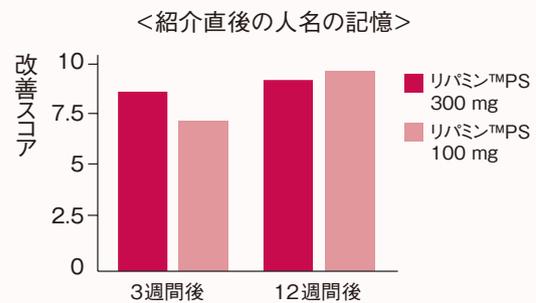
被験者： 149人 (年齢50～75歳)
投与期間： リパミン™ PS (PSとして300mg/日) または
プラセボを12週間
評価内容： 摂取前後でのPS群とプラセボ群で記憶力テスト
による改善した脳年齢の比較



➡ リパミン™ PS群で66歳の方が52歳の人のような成績を示し、脳年齢の若返りを確認

リパミン™ PS 100mg投与と300mg投与の比較

被験者： 12人
投与期間： リパミン™ PS (PSとして300mg/日または
100mg/日) を12週間
評価内容： 3週間、12週間後に経時的に記憶力を300mg/
日群と100mg/日群で比較

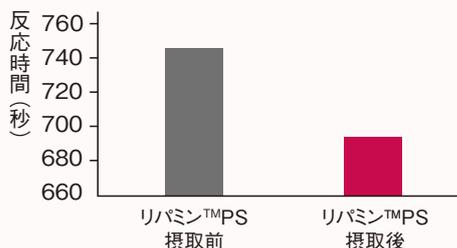


➡ PSとして100mg/日でも300mg/日と同等の効果を確認

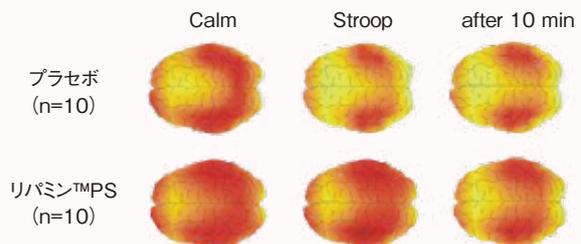
ストレス緩和効果

被験者： 大学生男性20名
投与期間： リパミン™ PS (PSとして200mg/日) またはプラセボを6週間
評価内容： ストループ・カラーワードテストによる反応時間およびテスト時の集中力の指標
シータ波の変化

ストロープテストにおけるリパミン™ PS の効果



大脳の活動 (シータ波のシグナル)



➡ テストの反応時間はリパミン™ PS摂取群で優位な改善がみられ、シータ波シグナルの有意な増加も確認
リパミン™ PSは、精神的ストレスを緩和し集中力を高めることを確認

AD/HDの改善効果

(注意欠陥多動性障害)

被験者： AD/HD児36名 (4～14歳)
 投与期間： リバミン™PS (200mg/日) またはプラセボを2ヵ月間
 評価内容： 摂取前後でのDSM-IV-TR (AD/HDのアンケート調査)、
 go/no-go task (行動抑制の代表的な課題)、WISC-III (知能検査)

※群内において、統計的に有意な差が認められた項目
 (*: P < 0.05, **: P < 0.01)

| | AD/HD | リバミン™PS群 (n=19) | | プラセボ群 (n=17) | |
|---------------|---------------|-----------------|-------------|--------------|------------|
| | | Baseline | End | Baseline | End |
| DSM-IV-TR | AD (不注意) | 11.4 ± 3.2 | 7.2 ± 3.9** | 11.5 ± 3.4 | 10.9 ± 4.6 |
| | HD (多動性・衝動性) | 6.7 ± 1.7 | 4.4 ± 2.7** | 6.7 ± 1.8 | 6.7 ± 2.4 |
| | 逆分握り忘れ (不注意) | 4.8 ± 1.4 | 2.7 ± 1.3** | 4.8 ± 1.6 | 4.2 ± 2.0 |
| go/no-go task | 逆分エラー数 (衝動性) | 1.8 ± 3.3 | 0.1 ± 0.3* | 0.3 ± 1.0 | 0.8 ± 1.3 |
| | 総エラー数 | 3.4 ± 2.7 | 2.9 ± 2.8 | 3.2 ± 1.4 | 3.2 ± 2.6 |
| | ワーキングメモリ (順唱) | 5.3 ± 4.6 | 3.2 ± 2.7* | 3.5 ± 1.8 | 3.9 ± 3.1 |
| WISC-III | ワーキングメモリ (順唱) | 6.6 ± 2.0 | 7.7 ± 2.7* | 6.5 ± 3.1 | 6.9 ± 2.4 |
| | ワーキングメモリ (逆唱) | 4.6 ± 2.5 | 4.9 ± 3.3 | 3.9 ± 2.0 | 3.2 ± 2.4 |

➡ AD/HDの構成要素である不注意、多動性・衝動性のいずれにおいてもリバミン™PS群で改善を確認

➡ 更にAD/HDが苦手とするワーキングメモリの改善も確認

特許第3924455号「ホスファチジルセリンによる注意欠陥多動性障害の治療法」

健常児童の学力の向上

被験者： 健常児童19名 (平均年齢8歳)
 投与期間： リバミン™PS (200mg/日) またはプラセボを2ヵ月間
 評価内容： 摂取前後での知能テストにおける下位尺度 (語彙、読み、算数) と習得総合尺度のスコア比較

※有意傾向 *0.05 < P < 0.1

| | | リバミン™PS群 (n=8) | | プラセボ群 (n=11) | |
|--------|----|----------------|--------------|--------------|--------------|
| | | 摂取前 | 摂取後 | 摂取前 | 摂取後 |
| 習得下位尺度 | 語彙 | 97.8 ± 17.3 | 99.8 ± 16.2 | 95.3 ± 10.8 | 98.0 ± 10.8 |
| | 読み | 103.7 ± 14 | 105.3 ± 14 | 93.8 ± 14.6 | 94.8 ± 14.3 |
| | 算数 | 96.0 ± 14.5 | 101.8 ± 15.2 | 99.4 ± 14.1 | 96.1 ± 13.1* |
| 習得総合尺度 | | 98.8 ± 16.6 | 102.6 ± 18.1 | 95.0 ± 10.9 | 96.2 ± 13.2 |

➡ リバミン™PS群において、3つの知能テストにおける下位尺度 (語彙、読み、算数) と習得総合尺度の全てで増加傾向を確認

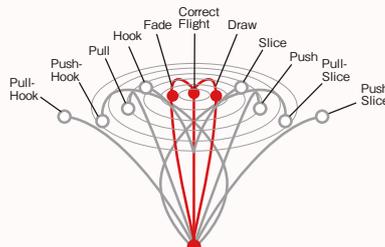
➡ 「算数」においては、有意傾向を確認

スポーツ分野における効果

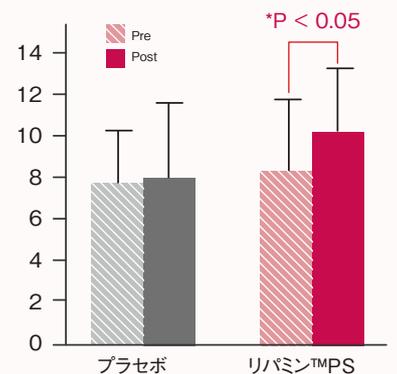
集中力/ゴルフパフォーマンス

被験者： 男性20名 (ハンディキャップ15～40の20～55歳)
 投与期間： リバミン™PS (200mg/日) またはプラセボを42日間
 評価内容： 摂取前後でのボールの飛行精度を計測

➡ リバミン™PS群でボールの飛行精度の向上を確認



※飛球を11種類に分類しました。「Correct Flight」、「Fade」、「Draw」をヒット (●)、それ以外をミス (○) としました。



研究者情報

ラルフ・イエーガー 博士
 (Dr. Ralf JAEGER)



ドイツ ボン大学にて有機化学博士号取得。アメリカ カリフォルニア工科大学 (Caltech) で博士研究員を務めた後、ドイツ デグサバイオアクティブス社にて、クリアチン、ホスファチジルセリンを初めとするスポーツニュートリション素材開発に関わり、現在も多くのスポーツニュートリション研究・開発に関わっています。

リバミン広報センター www.lipamin-ps.com



株式会社ヘルシーナビ
www.healthynavi.co.jp
 TEL:03-6715-8068
 E-mail: info@healthynavi.co.jp



DKSHジャパン株式会社
www.dksh.com/japan
 東京 TEL:03-5441-4535
 大阪 TEL:06-6282-0562



ビーエイチエヌ株式会社
www.bhn.co.jp
 TEL:03-5281-5661
 FAX:03-5281-5662